

道ばたに落ちているゴミ

51期生

I テーマ設定の理由

修学旅行で訪れた乗鞍ではゴミがあまり落ちていませんでした。しかし大阪に帰ってきて見るとそのゴミの量にびっくりしました。そこでポイ捨ての量は人口の割合と何か関係があるのかなと疑問を持ち始め実際に調べて見ることにしました。

II 研究方法

1. 文献調査 ポイ捨てに関する本を探す。市役所で文献をもらう。
2. 聞き取り調査 市役所で担当の方にお聞きする。
3. データ収集 実際に自分達で駅沿い、商店街で種類別に収集、集計する。

III 研究内容

1. 文献調査より

(1) ポイ捨ての原因

例・空き缶①野外に設置された自販機 ②消費者の道徳の問題 ③買うから主に②が原因だと私は思います。利己的行動にはポイ捨てをする方が損失は少ないけれど環境の悪化も防げないし、コストがとてめにかかることとなります。ゴミ箱を随所に設置した場合で缶あたり8.2～9.2円、ゴミ箱をまったく置かないと缶あたり12.5～28.2円かかってしまうのです。ゴミ問題は人間の問題です。

(2) 罰則を強化!?

いわゆる法律による直接規制です。ポイ捨てを禁止することにより、これを犯した人にペナルティとして罰則を科するというやり方です。このような禁止規定が実際に効果をあげるためには、法の執行当局の熱心さと執行能力及びそのために費やされる金額に依存しています。しかし、ポイ捨て行為の全てを監視、取り締まることは容易ではありません。たまたま発見された違反者に対して見せしめに過重な罰則を科するのはその他の違反者が発見されない状態では公平を欠くものであり、発見された人は運のなさを嘆くだけです。公平を期すために監視・取り締まりを強化すると費用はかかるし、個人が不断に警察の監視下におかれるという事態が発生しないとも限りません。そのように監視されているのは住みやすい街とは言い難いですよ?

(3) ではモラルキャンペーン!?

モラルキャンペーンでポイ捨てに対する関心は高まるでしょう。私もそうだし、多くの人も同じだと思います。それによってゴミが減るはずですが、キャンペーンが終わると忘れてしまうのは事実だし、キャンペーンをやっても皆無にならないのも事実です。繰り返しキャンペーンが行われれば行われるほど消費者はどれもキャンペーンの効果があがってないのではと疑問を持ちます。モラルは緊急性を必要とするもの

に対してであり、ゴミの散乱防止に対しては疑問とするむきが多いです。

(4) 和歌山市役所でいただいた資料より

①「和歌山市美化推進及び美観の保護に関する条例」の趣旨より

「和歌山市では、国際文化都市を目指し、日本一美しいまちづくりを行うビューティフル和歌山推進事業を実施しています。……そうした自覚を促し、意識改革を図るためには罰則を設けた条例を制定することによって、地域の環境美化の促進、美観の保護形成を行って方策として提案させていただいたわけでございます。……条例を施行することで空き缶や吸い殻等に対する心ない投棄が、美化推進や美観の保護において大きな障害となっているという認識や美化意識の向上を図り……ひとりひとりの意識改革を図っていくしか解決方法がないのでは……。」つまり意識改革というモラルの向上に目的を置いたのです。

②和歌山のポイ捨て防止対策

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| (ア) 灰皿付きのゴミ箱の設置及びゴミ回収 | (カ) 美化推進委員制度 |
| (イ) 特定美観地域告知看板の設置 | (キ) ガソリンスタンドにて専用ゴミ袋配布 |
| (ウ) 空き缶回収機を6台設置 | (ク) 道路清掃員の派遣 |
| (エ) 一万人大清掃の実施 | (ケ) 各課が管理する公共施設の清掃の強化 |
| (オ) 「おはよう5分間清掃」 | (コ) 花壇への転換 |
| | (サ) ボランティア団体の育成 |

③条例の効果（平成5年度 市政世論調査概要第47集抜粋）

Q1 ポイ捨て条例をご存じですか？

知っている	98.1%
知らない	1.2%

Q2 この条例を何で知りましたか？

市の広報紙	38.2%	新聞・テレビ等	56.2%
人から聞いて	4.8%	その他	0.7%
無回答	0.2%	反対	1.5%
わからない	3.7%		

Q3 ポイ捨て条例の制定についてどう思いますか？

賛成	68.8%	やむを得ない	24.7%
無回答	1.3%	全然反対	9.0%
反対	0.2%	やや反対	0.1%

Q4 条例施行後、空き缶や吸い殻の散乱状態はどうなりましたか？

現状のまま継続	14.0%	無回答	4.3%
可が美しくなった	85.0%	時により	4.9%
今より	0.5%	今より	0.5%
わからない	5.0%	その他	2.4%
その他	2.4%	無回答	2.2%

Q5 今後この条例の運用についてどうすれば良いですか？

市内全域を特定美観地域にする	37.8%	特定美観地域を増やす	33.3%
----------------	-------	------------	-------

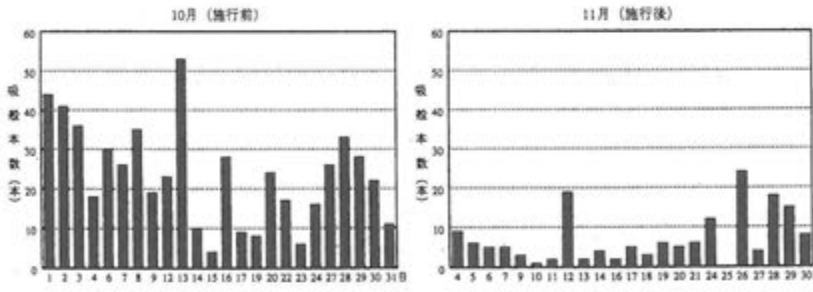


図1 和歌山駅前広場（特定美観地域）のポイ捨ての推移
 ■ポイント①和歌山駅前内から出た所（幅5m、長さ45mの範囲）
 ■ポイント②和歌山駅前内北側の通路（幅3.5m、長さ75mの範囲）
 ■ポイント③駐車場、駐輪場の連絡通路（幅2.5m、長さ40mの範囲）
 ※日本ボイスカウト和歌山連盟和歌山支部 赤山地区「富士個人プロジェクト報告書」より

◀以前町に散乱していた空き缶や吸い殻を「100」とすると施行後「30」ぐらいまで減少したとよく言われます。やはり美化意識が向上されたことがこの条例の一番の効果だと考えられます。

(5) 大阪市役所でいただいた資料より

①北区内「散乱ごみの実態調査」

調査地点・①駅周辺（JR天満駅）②大規模公園（扇町公園）③小規模公園（野崎公園）④遊歩道（淀川河川敷）⑤繁華街Ⅰ（天神橋筋商店街）⑥繁華街Ⅱ（曾根崎交差点東側）⑦高架下（阪神高速道路守口線）⑧住宅地域（浮田町1丁目付近）⑨学校周辺（専門学校周辺）

結果・(i)散乱物比

※古いガムは散乱個数の中には含まれません。別途分析しました。



散乱物10種類を4項目に分けて分析

- ・たばこの吸い殻
- ・缶・ビン・ペットボトルを合わせて飲料容器
- ・紙類・プラスチック袋・レジ袋・包装材を合わせて紙・包装材
- ・ガム・キャップその他をその他

(ii)散乱の要因

- ① 地下出入口 たばこの吸い殻、紙類、古ガムが多い。
- ② 横断歩道 古ガムが多い。（有意差あり）たばこも多い傾向。
- ③ ごみ箱 ごみ箱のあるブロックでたばこの吸い殻、古ガムが多い。（有意差あり）
- ④ 植樹帯 植樹帯のあるブロックでたばこの吸い殻、古ガムが多く、総散乱数も多い。（有意差あり）
- ⑤ 側溝 側溝のあるブロックでは総散乱数、古ガムは多い傾向。
- ⑥ 自動販売機 自動販売機のあるブロックではたばこの吸い殻が多い傾向。
- ⑦ 公衆電話 公衆電話の有無でブロックでは散乱状況に差は見られない。
- ⑧ モーターブ 駐車場・公園に隣接した地域それ以外では散乱状況に差は見られない。
- ⑨ 駐輪自転車 駐輪している自転車周辺には紙ごみや飲料容器が多く散乱
- ⑩ 不法投棄場 粗大ごみ等の不法投棄場所に散乱ごみが集中する傾向

②散乱ごみ対策への基本となる考え方

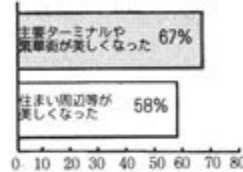
- (i)都市景観を向上させ、散乱ごみを減らす。
 たたずまいや自然が美しいところは、ポイ捨てが少ない傾向がある。町並みや屋外広告物、緑化、駐車、駐輪対策などと相互に関連づけて取り組むのが重要。
- (ii)市民、事業者、行政、それぞれの役割を果たす。
 ○散乱ごみの発生にかかわる事業者の役割
 積極的に散乱ごみ防止に努め、市民の活動をサポートしよう。
 ○市民・企業市民の役割
 市民が主役になって、自分たちの手でまちをきれいにすることが大切です。
 ○大阪市の役割
 市民や事業者との連携を図りながら、効果的な対策を実施しよう。
- (iii)総合的にとらえ、先進的に取り組む
 様々な問題の解決を総合的対策を実施し先進的、創造的な試みを導入しよう。

③美化推進事業

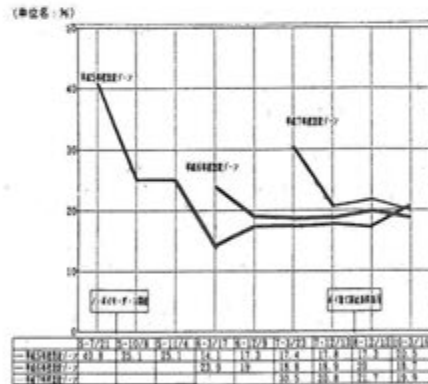
- (ア)テレビCM、ポスターによる美化啓発
- (イ)イベントによるポイ捨て防止キャンペーン
- (ウ)ノーポイモデルゾーン
(ポイ捨て防止推進モデル地区)
- (エ)ノーポイリーダーズによる啓発
- (オ)美化強化デー
- (カ)美フレッシュ大阪月間
- (キ)清掃用具交付制度
- (ク)清掃ボランティアの集い
- (ケ)ビッグイベント開催に向けた美化対策
- (コ)道路清掃
- (ク)街頭ごみ容器の設置
- (コ)公園等の清掃

④平成10年度第1回市政モニターアンケート「まちの美化について」の調査結果

- Q1 街の美化推進に個人的に行いたいことは?
・自分が街を汚さない・自宅前を定期的に清掃する
- Q2 「OSAKAクリーンピック98」を知ってる?
・知らない 84.1% ・知ってる 15.7%
- Q3 ポイ捨てされる理由は?
・他にもごみが捨てられてて抵抗がない 53.4% ・処罰されないから 48.1%
- Q4 街をより美しくするために今後すべきことは?
・美化啓発教育強化 51.5% ・法律を適用し処罰 49.2% ・住民が協力 47.8%
- Q5 街の美化について自由意見
・行政による美化対策の強化 + ・ごみ箱の増設と管理の徹底……など



⑤ノーポイモデルゾーンの実態調査



- (ア)路上喫煙率
全歩行者中の約2%前後。京橋は乗り換えのための距離が短いのでその他より低い。
- (イ)路上喫煙率
朝がかなり高い。通勤電車内で吸えないから?
- (ウ)吸い殻の始末方法
灰皿に捨てた人が32.8% (H5) から42.0% (H10) に増加。置くように捨てた人(足でふむなど)が34.3%、投げるように捨てた人が18.4%、排水溝に捨てた人が3.3%、空き缶に捨てた人が7%。

▲投棄率の推移 ※投棄率：調査期間中に調査時点で捨てられた吸い殻 ÷ 調査時点通過時における喫煙者数 × 100

⑥今後新たに実施すべき対策について

- (a)ごみ回収器を正しく配置
- (b)ノーポイモデルゾーンを徹底的にきれいに
- (c)街をきれいにする姿勢を育む
- (d)清掃ボランティアの活動を盛り上げる
- (e)ポイ捨てしにくい美しい景観をつくる
- (f)市民、事業者、行政のパートナーシップを基本に新しい社会制度を導入
- (g)地域ごとに美化対策に取り組む。
- (6) 両市が注目するアダプト・プログラム アメリカでも注目されています!!
ボランティアとなる市民や地元企業が「里親」として一定区画を定期的に清掃して面倒を見、子(アダプト)とすることです。自治体は清掃用具の貸与などを行います。

2. 罰金制度で街はきれいになるのか

(1) 和歌山市役所の中西さんのお話より

日本で最初に罰金付きポイ捨て禁止条例を施行した和歌山市。平成6年の世界リゾート博にむけて、街をきれいにする目的で作られました。罰金を設けたのは、罰金制度があるシンガポールで、ゴミが全く落ちていなかったからだそうです。しかし、実際に罰金を支払った人はいません。

条例を施行して発生したメリットは、ポイ捨てが減ったことと、住民の意識が向上したことだそうです。その反面、美化対策にはお金がかかります。灰皿1個設置するのに15万円もかかるので、予算は、今年度で5000万円強、条例施行当初の平成4年度では11億円だったそうです。予算が減ったため、掃除等の人手も減り、条例実施直後に比べると状態が悪化しているの、来年度からまた予算を増やすそうです。

他の地域でも、同様の条例を施行すべきか」という問いに対しては、「罰則は意識改革のための1つの方法にすぎず、それがベストだとは言えない。和歌山市では、罰金がベターだということを実施しているが、市によって状況も違うため一概によいとは言えない。」とおっしゃっておられました。

(2) 大阪市役所の下野さんのお話より

大阪市では、ポイ捨て防止条例を改正するか検討中です(新聞には内容も載っていたけど、実はまだ決まっていないそうです)。改正するのは、原状回復させることと、ポイ捨ては法律違反だということをお知らせするのが目的だそうです。罰金制度は、どの地域でも威嚇効果で終わっていて、条例文として書くだけなので意味がないが、実際に刑罰を与える場合は全員平等に適用しなければならず、市民が常に監視下におかれることにもなりかねないのが問題のようです。また、見ていない所でポイ捨てをしたり、罰金制度では街は絶対きれいになりません。「きれいで気持ちがいいから、これを続けよう」と心から思い、自分からすすんで行動をおこすことが大切だとおっしゃっておられました。

今後の美化対策の1つとして、信号付近や、禁煙の地下街への入り口等に灰皿を置くことを挙げて下さいました。しかし、ゴミ箱については、ゴミ箱があるからゴミを捨てる(家や店からゴミを持って来る)人もいて、ゴミ箱を増やしたからといってゴミが減るとは限らない、とおっしゃっておられました。ゴミ箱をきっちり管理する等、ポイ捨ての対策は、地道な取り組みが基本だそうです。

3. 和歌山と大阪の実態比較

実際に和歌山の道歩くことで、ポイ捨ての状況を知ることができました。

写真1は、大阪の中でも汚いと思われる京橋の道路です。白いのがたばこの吸い殻、黒いシミのようなものは古ガムです。



写真1 京橋駅前



▲写真2 和歌山駅前



▲写真3 京橋のごみ箱

写真2は、JR和歌山駅前の歩道です。大阪とは違い、ごみがほとんど落ちていません。

溝や花壇をのぞきこむと、たばこの吸い殻があるのがわかりますが、きれいな道でした。

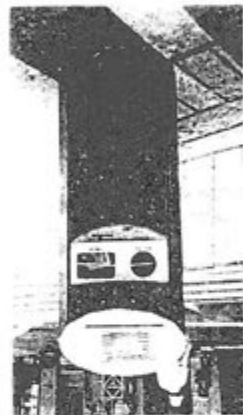
また「裏通りでポイ捨てが増えたらしい」という話のある人から聞いたので、見に行ってみました。確かに、吸い殻は少し落ちていましたが、やはり、大阪よりはるかにきれいでした。

ごみ箱の周囲の状態も、大阪と和歌山は対照的です(写真3と写真4)。

京橋では、ごみ箱からごみがあふれていたり、すぐ近くにごみ箱があるのにポイ捨てをしたり……そういう状況が、しばしば見られました。ごみ箱からごみがあふれていたのは、ごみ箱の管理がしっかりなされていない、という理由もあるでしょう。

しかし、ごみを捨てる人が、空箱をつぶしたりすれば、ごみがあふれることはなくなるといいます。ごみがあふれていると、見ていて不快だし、不衛生です。

和歌山で、ごみ箱の周りにごみが落ちているのは1度も見かけませんでした。住民の意識の高さでしょうか!?



▲写真4 和歌山の灰皿付ごみ箱

4. 大阪府内のポイ捨ての現状

私達の身近な地域のポイ捨ての現状を知るために、実際に道に落ちているごみの数を数えました。

各場所のごみの種類別個数の上位3つは、表1のとおりです。

いずれも、最も多いのはたばこの吸い殻だということがわかります。2位・3位は、それぞれ紙くず・ビニールがほとんどです。商店街においては、金属類が数多く落ちている場合もあります。紙くずは、ガムの包み紙(中にガムが入っている場合が多いです)や、レシート、広告などで、ビニールは、たばこや菓子の袋が多いです。金属類は、工事によって出たもの(寺田町の商店街が工事中でした)、ダンボール箱を留めた金具などで、商店街独特のものが多ようです。

		1位	2位	3位
京橋	駅沿いの歩道	吸い殻	紙くず	ビニール
	商店街	吸い殻	紙くず	ビニール
玉造	駅沿いの歩道	吸い殻	紙くず	ビニール
	商店街	吸い殻	紙くず	ビニール
寺田町	駅沿いの歩道	吸い殻	紙くず	ビニール
	商店街	吸い殻	金属	ビニール
四條畷	駅沿いの歩道	吸い殻	紙くず	ビニール
	商店街	吸い殻	紙くず	金属

▲表1 ポイ捨ての種類別個数

道に落ちているごみの大部分を吸い殻・紙くず・ビニールが占めていますが、なかでも、吸い殻は、全体の4~5割、つまり半分近くを占めているのです。

各場所の、全てのごみの数の比較は、グラフ1のとおりです。

駅沿いの歩道では、四條畷でかなりごみが少なく(他の半分以下です)、商店街では玉造が最も多く、京橋が少ないという結果になりました。

私達は、初め、道路に落ちているごみの量は、通行者の数と関係があると考えていました。しかし、グラフ1より、通行者の数(駅の乗降人員の数で考えました)と、ポイ捨ての量とは、あまり関係がないことがわかります。

ポイ捨ての数に関係すると考えられるのは、溝の有無と、その数です。溝は、排水溝や、側溝など様々ですが、溝の中には、吸い殻やビニールが多くある場合がほとんどでした。

駅沿いの歩道について考えると、溝が多かったのは玉造と寺田町で、いずれも京橋・四條畷よりごみが多く落ちています。

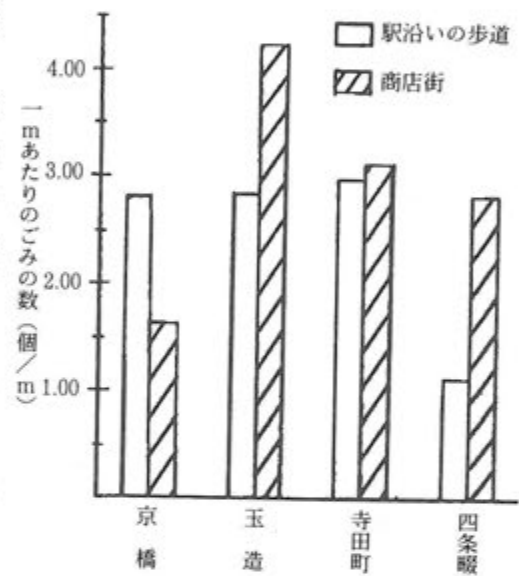
京橋で四條畷よりもポイ捨てが多いのは、住民のモラルの違い、ということがまず考えられます。

四條畷市は、府内で最も人口密度が低いのですが、大阪市は人口が多く、京橋などは特に、「ごみごみしている」という印象を受けます。また、四條畷には比較的自然が多く、水もきれいです。きれいな所は、あまり汚したくない、と思うのが普通です。逆に、きれいでない所では、自分1人ポイ捨てをしても変わらない……と、思っています。

そして、少しずつモラルが低下していき、多くの人がポイ捨てをするようになるのではないかと思います。

商店街では、溝がほとんどないのは京橋だけでした。玉造には側溝が多く、寺田町には一部、側溝があります。四條畷にはいくつか排水口がありますが、排水口の中にごみがたまっていることはほとんどなく、格子の隙間に吸い殻等がたまっている程度でした。

商店街では、自分の店の周りを毎朝掃除しておられる人が多いため、どの商店街も割ときれいです。グラフ1のように、ごみの数に大きな差が出るのは、商店街の人が掃除をしない所、つまり溝の有無や溝の数が違うからです。溝は掃除をしないので、日々吸い殻が増えていきます。さらに、溝の中のごみはあまり目立たないため、吸い殻等を溝に捨てる人は少なくありません。しかし、何年ものごみがたまっていくのは、とても不衛生です。たとえ目立たなくても、悪臭はするし、虫がわいてきます(実際に、そういう所があります)。だからといって、溝をなくすわけにはいきません。溝の役割は、ごみ箱ではありません……。



IV 結 論

ポイ捨てをすれば、得をするのでしょうか？もちろん、そんなことはありませんね。確かに、ポイ捨ては楽です。しかし、その代償はもっと大きいということに、一体どれだけの人が気付いているのでしょうか。

ポイ捨ては、住民のモラルの問題です。住民の「心」に関わる問題だからこそ、完璧なポイ捨て対策はありません。たとえ罰則を設けたとしても、絶対街はきれいにならない——下野さんの言葉が印象的でした。それぞれの対策が完璧なものでなくても、いくつかの対策を組み合わせれば、きっと街はきれいになると思います。今は汚い大阪の街も、和歌山のように美しくなってほしいです。

ポイ捨てを減らすと、街が美しくなるだけでなく、環境にも、衛生面においてもいいのです。

私達一人一人がポイ捨てをせず、ごみをごみ箱へ捨てるように心がけることが大切だと思います。

V 総 括

大阪の街は汚い、そう再認識させられました。ごみ箱があるのに道に捨てられるごみ。大阪人のモラルの低さを感じました。

今まで、自分達の住む街にはごみが多く汚い、と感じることはほとんどありませんでした。ごみが多いことに慣れていたのでと思います。

でも、実際に自分達がごみを拾ったりするうちに、「ポイ捨てはあかん」という気持ちが強く持てるようになってよかったです。

VI 参考文献

- ・ 槐一男「空き缶『リサイクル』は地球にやさしいか」地歴社
- ・ ジ・アース・グループ「地球を救うかんたん50の方法」講談社
- ・ クリーン・ジャパン・センター「リサイクル'97」
- ・ 食品容器環境美化協会「アダプトプログラムをお勧めします。*美しい街づくりを目指して*」
- ・ 大阪市環境事業局・大阪市教育委員会「くらしと環境」
- ・ 大阪市環境事業局庶務課「わたしのまち きれいな大阪」
- ・ 大阪市環境事業局減量美化推進課「クリーン3きょうだいの散乱ごみ減量大作戦」
- ・ 大阪市廃棄物減量等推進審議会「『大阪市の散乱ごみ対策を中心としたまちの美化施策のあり方』(答申) 審議結果報告書」
- ・ 和歌山市・大阪市のポイ捨て防止条例文など
- ・ 新聞(日経・毎日)